種子繁殖イチゴ「よつぼし」を作る

甘くておいしいと評判

観光イチゴ園には最適品種

イチゴ作りで千客万来のすぎやまいちご園（神奈川県厚木市小鍋島）は3年ほど前から、わが国では全く画期的な「よつぼし」という種子繁殖イチゴを導入しているが、これはとってもおいしいイチゴだと大好評のようだ。4月2日に園主の杉山圭一さんを訪ね、その評判ぶりを聞いてみた。

神奈川県厚木市
小鍋島
すぎやまいちご園

これが種子繁殖の「よつぼし」。8種入っているすぎやまいちご園の園主の話によれば、イチゴ狩りにはおもしろい品種だろうと評価している

杉山さんはイチゴを作り始めて今年で38年になるという。その前はお父さんがやっていたのだが、杉山さんが25歳のときに亡くなったので、以来その後を継いで観光イチゴ園を経営している。

延べ740坪のイチゴを本人と妻、母、娘の家族4人の家族経営だが、母はハウスは自宅の西側にある。温室だったが昔はガラス室だったようで年数が経ったため、いまはそうした中でこの品種をぜひ作ってみようと思ったのが「よつぼし」だったようだ。

㊤すぎやまいちご園の園主と㊦はこのハウスには8品種が入っているが、右側3畦には種子繁殖の「よつぼし」が入っている

日本のイチゴはこれまで栄養繁殖型のものがほとんどだが、そこに種子繁殖型の「よつぼし」が登場した。これが将来のイチゴとして脚光を浴びているようなので、ぜひ取り入れてみようと思ったという。おりから、山梨県の三好アグリテックという会社が販売権を取ったというニュースを聞いたので早速申し込んだようだ。3年ほど前のことだが、この品種は確かに甘くて、おいしいことが試作して分かったので、今年はちょっと規模を増やしたという。

病虫害に強い

8品種を比較対照

栄養繁殖のイチゴはいずれも名が知れている品種だが、種子繁殖の「よつぼし」も2年ほど試作した結果から、これはいけると思ったと杉山さんはいう。なにがよいかというと、甘くておいしいということ、それから病害に強いことがわかったからで、これはうちのようなイチゴ狩りにはピッタリで、問題点もあるが、それは今後ポツポツと改良していこうということで、今年は900本くらいの苗を導入したそうだ。

「よつぼし」の苗は7月中ばにセル苗で到着した。それを7.5㌢のポットに鉢上げして大きくし、9月28日に定植した。それより早く定植すると開花がどんどん進んで、いまはたった5軒しか残っていないそうだ。

小鍋島というところは昔はイチゴ農家が50軒くらいいたようだが、高齢化が進んで、いまはたった5軒しか残っていないそうだ。

ところで、お客さんの「よつぼし」に対する評価を聞いてみた。

「ネームバリューでは対照区の紅ほっぺやさちのかなどにはかないませんけれども、味の点ではこの方が上のようです。甘くて、おいしいとみんながいうんです。ただ、見た目にはやや小ぶりだねというんですが、そういいながらも「よつぼし」の方に客が行っちゃうんですよ。普通は小さいと食わないですけど、「よつぼし」は食べるんです。それがわかるのは私のところのようにイチゴ狩りができるからじゃないかと思うんです」

だから、実がちょっと小さくてもあまり気にしなくなりましたと杉山さんはいっている。要は甘くておいしければ客は寄って来るということではないだろうか。「きょうはなりが少ないみたいですけど味の良さがイチゴの生命で、おいしければお客さんがかならず来てくれるという自信につながったようだ。

肥料はかなり食う

液肥を日量400cc増やす

それとよくいわれるのは、「よつぼし」には病気がついていないということだ。お客さんがいうのとおり「よつぼし」には部うどんこ病や炭そ病は全くついていないみたいです。最近は暖かくなってきたから、そろそろ出るんですが、「よつぼし」には出ていませんと杉山さんはいう。

ただ、「よつぼし」にも短所があるようだ。その一つは、普通は花が全部外側に出るけれども、「よつぼし」は中に入ってしまうんです。ランナーから苗を取るわけではないから花の向きが定まらない。それがとても手間がかかるんですと杉山さんはいう。

それから、このイチゴの収量はどうですかとよく聞かれることです。普通の農家さんは何パック取れたから収量はいくらとすぐ出るんでしょうが、うちのようにいちご狩りをしていると、それが出にくいことです。だから、大体の見当でしか答えられないですけれども、隣の紅ほっぺに比べると2割くらいは少ないんじゃないでしょうか。そのかわりお客さんは多少実が小さくても食べるんですから、それもイチゴ狩りの魅力だと思うんですと杉山さんは語る。

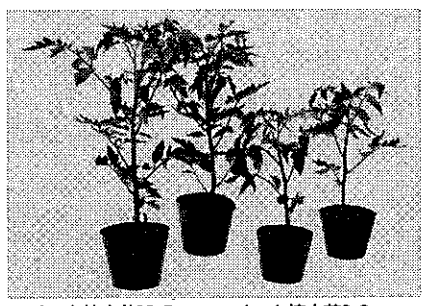
すると「よつぼし」は来年は増やしますかと聞いてみた。すると杉山さんからこのような答えが返ってきた。「イチゴ狩りをうたっているからそんなに増やすことはできないんです。いま以上に増やすとなると場所も必要ですから、その辺が難しいところです」

3年目にして「よつぼし」の作り方もだいぶ分かってきたようだ。肥料をかなり食うようだということは聞いていましたから、施肥は増やしました。高設ベッドですから有機肥料（サニー肥料）を与えており、今年は日量400ccほど増やすようにしたところそれが良かったのだと思いますが、「よつぼし」もかなり実が大きくなりました。そのような作り方はこれから研究しなければならないと思っています。

㈱村田農場の「野菜苗」

培土から育苗まで一貫生産。一年を通じ強健な苗を注文にてお届け致します。

品種（穂木・台木）・定植日をご指定いただければナス類、ウリ類の接木特許を持つ当農場で育てた優れた苗をお届けいたします。



トマト接木苗10.5cm　トマト接木苗9.0cm

キュウリ苗

㈱村田農場
〒791-0214 愛媛県東温市南野田742
苗関係のお問い合わせは
TEL 089(964)7878
FAX 089(964)0406